

感謝箱献金だより

ガリラヤのほとり 40 号

「平和メッセージ」

平和を実現する人々は幸いである。

その人たちは神の子と呼ばれる。（マタイ 5：9）



沖縄教区主教
グビデ 上原榮正

8 月 15 日・終戦記念日、各地で平和の式典が行われました。日本
は先の戦争で多大な被害と犠牲者を出した反省から、天皇制から民主
国家へ、帝国主義、覇権主義国家から平和国家となりました。戦後 7
8 年、日本が平和であるのは憲法九条があるからです。

しかし、今の日本は中国の台頭、尖閣問題、台湾有事、北朝鮮による繰り返されるミサイル
発射、ロシアのウクライナ侵攻などを理由に、安全保障を強化し、日本の軍事要塞化を進めて
います。専守防衛から敵地攻撃も可能な武器の購入や開発が行われます。戦争体験者が減少し、
戦争の悲惨さを知り伝える人も減少しているためです。安全保障は軍事力による国家、国民の
独立と安全を確保、維持することであり、神さまの求める平和ではありません。

戦争は人を残忍、残酷にします。国は戦争遂行のために情報をコントロールし、国民の憎悪
を煽り、敵を殺すことを正当化し、正しいことと教育をします。人を殺せば心に傷を負い、戦
争が終結すると PTSD（パニック症候群）などになり、多くの人が悲しみ、苦しみを抱えます。

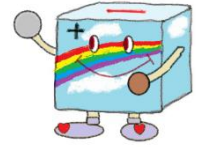
戦争は父、夫、息子を兵士として危険な戦場へと駆り出します。敵、味方関係なく、愛する
人を奪います。日常生活を奪います。職場での仕事、学校での授業、家庭での団らんなどが失
われます。生活、自由、人々の笑顔も奪います。それが戦争です。時々、現在戦争の中に暮ら
す人々を想像すべきです。日本では空気のような平和の尊さ、大切さ、重みを実感すると思ひ
ます。

キリストは、私たちに神を愛し、人を愛せよと教えられました。敵を愛し、赦すように教え
られました。人を殺せとも、憎めとも教えていま
せん。しかし、戦争は愛する心を奪い、憎む心を
増幅させ、正しく判断する力を奪います。人の命
は失われたなら、どんな代価を支払っても買い戻
せません。戦争は、国家や民族の間に争いを煽る
力が働き起こります。平和は人と人との間の見え
ない、小さな所から始まります。平和は与えられ
るものではなく、一人一人が創造し、広げていく
ものではないでしょうか。



6 月 23 日 教区慰霊の日礼拝

2023 年度 感謝箱献金 お献げ先 支援額



日本聖公会婦人会第 27(定期)総会後第 1 回会長会(2023 年 6 月 20.21 日)で決議されたお献げ先。
毎年、お献げ先の議案が提出、審議され支援が決定されます。＊感謝箱献金ハンドブックもご覧ください。

お献げ先	支援内容	支援額	継続年数
エルサレム教区 「聖地ろうあ子どもの里 HLID」	中東聖公会エルサレム教区の宣教拠点としてヨルダンに設立。聴覚障がい、視覚との複合障がいをもつ子どものための教育施設。将来の自立のために職業訓練も行っている。 シリア難民キャンプでも支援活動を実施。	20 万円	2012 開始 12 年間
リグリマ・ジャパン	バングラデシュの少数民族ガ口の女性たちの地位向上、経済的自立、差別を無くし、弱者が安心して暮らせる社会を目指す活動を現地の「リグリマ・バングラデシュ」と共に支援。	35 万円	2010 開始 14 年間
サイディア・フラハ	ケニアにある児童養護施設及び教育プロジェクト。親を亡くしたり、極度の貧困のために養育放棄された子どもを保護・養育し教育。就労の機会に恵まれない女性たちへの裁縫教室を実施。	35 万円	2014 開始 10 年間
ムクウェゲ医師の 社会啓発活動の支援 NPO 法人 RITA-Congo を通 じて	日本の NPO 法人 RITA-Congo は長年にわたり、コンゴ民主共和国のムクウェゲ医師の活動を支援。コンゴの鉱物資源を巡る紛争の解決と女性や子どもを性的暴力から守る活動。	20 万円	2023 開始 1 年間
東北教区 地域支援団体 釜石支援センター望	日本聖公会釜石支援センター活動終了後に設立。任意支援団体。震災後の地域コミュニティ作りを地元と県外のボランティアと共に活動中。	10 万円	2017 開始 7 年間
東北教区 「すこやかな会 ふくしま」	福島第 1 原発事故当時、児童養護施設で生活する子どもたちを放射線被ばく健康被害から守るために活動。施設退所時に検査結果を記録した「健康手帳」を手渡し、見守りを続けている。	10 万円	2023 開始 1 年間
中部教区 国際子ども学校 ELCC	フィリピンから日本に働きに来ている親の子どもたちが、日本語と社会性を身に付ける学校であり、居場所。地元の学校へ進む準備をする。	20 万円	2003 年 20 年間
中部教区 NPO 法人 ワンダタイム	長野県にある新生病院はカナダ聖公会ミッションの精神を受け継ぐ。連休中に海外医療協力事業を再開、バングラデシュに 4 名の医師を派遣。	10 万円	2023 年 1 年間
◇災害被災者支援積立金	災害発生時に速やかに支援できるように準備を整える必要がある。広く災害被災者支援を行う資金として、感謝箱献金から積み立てる。	30 万円	2023 年から 3 年間積立

中部教区「NPO 法人ワンダタイム」 海外医療派遣事業報告

司祭 洗礼者ヨハネ 大和孝明

NPO 法人ワンダタイムでは、4 月 28 日から 5 月 6 日まで（移動日含む。実診療は 4 日半）、バングラデシュのジョイラムクラ・クリスチャン病院に医師を派遣しました。新型コロナウイルス流行以降、3 年半ぶりの派遣となりました。整形外科・形成外科・口腔外科・脳神経外科の医師 4 名が診療にあたりました。

現地ではたくさんの患者さん達が待っておられました。診察した患者さんの総数は 5 日間で 255 名、手術数は 4 日間で 47 件でした。外来患者の一日平均は 51 名（前回 19 年の派遣では 33 名）手術件数は一日平均 11.8 件（前は 10 件）でした。女性や子どもの診療も多数行いました。参加医師によると、「術後の患者さん達の笑顔が印象に残っている」とのことでした。現地での医療支援の必要は大きく、定期的な支援再



開、診療内容や手術の充実、医療環境の改善、現地の医師や看護師への教育が今後の課題となります。

「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」（マタイ 25：40）。かつてカナダ聖公会の人々が小布施の新生療養所（後年の新生病院）設立と患者さんの治療のため尽力してくださったことを覚え、同じ愛の業を、これからも世界の必要とする方々に届けてまいりたいと思います。日聖婦の皆様からの祈りと感謝箱献金のお支えに、心より感謝申し上げます。



東北教区「一般社団法人 すこやかのかの会ふくしま」

理事 澤田和美

2011 年 3 月の東京電力福島第 1 原発事故後、福島県の児童養護施設で 24 時間暮らす 450 人の子どもたちを放射能の被ばくから守るため、施設の職員は奔走していました。災害後の混乱時、子どもには近くにいて命を守ってくれる大人の存在が必要です。しかし親元を離れて児童養護施設で生活している小さな命は少人数だったため、また住民票が施設に異動できなかったため、見落とされてしまいました。

この窮状を知った小児看護を専門とする看護師 3 名が、2012 年に福島に事務所をおいて NPO 法人「福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」の活動を開始しました。子どもの住民票が施設にないため案内がこない甲状腺検査を独自に実施、その他の内部被ばく・外部被ばくの検査も実施、これらの検査結果を子ども自身が保管することが困難なので、「健康手帳」をつくり、施設を退所する時に一冊にまとめられて、自立していく若者に贈っています。

目に見えない放射能の被ばくに対しては、紙芝居をつくって子どもの理解しやすいストーリーにして、将来的に健康に留意することを知らせています。

原発事故から時間が経過して施設を退所した若者の支援を続けるために、一般社団法人「すこやかのかの会ふくしま」を新たに設立して、健康相談やコロナ禍での不安を支えるために「食料支援」を行うなど、施設を卒園後も見守りを行っています。3 年目の今年も卒園生 120 名以上に「実家便」のような宅急便を贈っています。12 年間、どこで、誰が、何を必要としているのかを分析しながら、焦点はぶれず、枠にとらわれずに柔軟に活動しています。2011 年に被災した東北教区婦人会からのご推挙を受けて捧げ物を賜ったこと、深く感謝しています。

ムクウェゲ医師の社会啓発活動の支援

日本の NPO 法人 RITA-Congo を通じて

コンゴ民主共和国

Democratic Republic of the Congo

アフリカ大陸の中央部に位置するアフリカで 2 番目に大きな国。赤道直下にあり、9 カ国に囲まれている。コンゴ川と熱帯雨林があり、野生動物が多く生息する。東部や南部にはダイヤモンド、金、銅、コバルトなどの鉱物資源が豊富な鉱脈がある。世界的な需要が高まるレアメタルも多く産出し、資源を巡る紛争や暴力が続く。住民は危険な環境で長時間労働が強いられ、得る収入は僅かである。



2019 年 東京大学で講演
写真提供: RITA-Congo

コンゴの歴史・紛争

1483 年 ポルトガルと交易開始【奴隷】
1885 年 ベルギー国王の所有地【象牙・ゴム】
1908 年 ベルギーの植民地【パーム油】
1960 年 ベルギーから独立【鉱物】

コンゴ紛争(1996-97 年、1998-2003 年)

1994 年、隣国ルワンダジェノサイド発生。コンゴ東部に大量のルワンダ難民が流入、旧政府軍兵士なども紛れ込み難民キャンプが軍事化、1996 年のルワンダ軍の侵攻と同時に AFDI (コンゴ・ザイールの解放民主勢力) が蜂起した。この 2 回の紛争以降、600 万人もの命が犠牲となっている。モブツ大統領の長期独裁政権が 1997 年に崩壊後、2003 年までに和平合意。その後も東部地域では武装勢力による暴力行為は続き、「世界のレイプの中心地」と呼ばれている。

ムクウェゲ医師について

デニ・ムクウェゲ医師はコンゴ民主共和国の産婦人科医。コンゴ東部の豊かな鉱物資源を巡り武装勢力による性的暴力によって傷つけられた多くの女性たちの治療をパンジ病院で行ってきた経験から、コンゴ東部の鉱物資源を巡る紛争の解決と女性や子どもの人権を奪う性的暴力の禁止を講演や映画などで世界に向けて訴え続けている。2018 年にノーベル平和賞を受賞。2 度来日し講演。コンゴの女性たちの被害は、私たちの生活を便利で快適にするスマホやパソコン、バッテリー等に使われている鉱物とつながりがある。

NPO 法人 RITA-Congo 事務局より (共同代表: 米川正子氏・華井和代氏)

コンゴは本当に数多くの問題が山積している国ですが、紛争下の性暴力や紛争鉱物問題解決のアプローチから、そして現地で解決に尽力しているムクウェゲ医師の支援を通じて、一步一步でも、コンゴの平和実現に向けて進めていけたらと思っています。いただいたご寄付は、そのために大切にに使わせていただきます。

北関東教区婦人会 感謝箱献金のお献げ先

婦人会代表 秋葉 緑

北関東教区のお献げ先としてご紹介するのは、群馬県高崎市で高齢者施設を運営する「社会福祉法人 新生会」です。

新生会の歴史は聖公会関係者によって1938年に建設された結核療養所に遡ります。看護師資格を持つ神愛修女会の修女達が看護にあたりました。その後高齢者福祉に着目し、1957年には「老人ホーム恵泉園」を設立。日本の高齢者福祉の先駆けとなりました。現在は11のホームと診療所、老人福祉センター等を運営しています。

榛名聖公会、榛名荘病院に隣接しており、聖公会の退職教役者やそのご家族、他教区の信徒や他教派の方々、信徒でない方々も入居しておられます。豊かな自然に恵まれた場所ですので、見学がてらお訪ねいただくのも良いかと思います。

最後に、感謝箱献金で長くお支えいただいた「アジア学院」が今年で50周年を迎えます。北関東教区では変わらぬ交流と献金を続けていることを付け加えます。



誓いの言葉

あなたがあなたの老年期の
住居を新生会のホームに
定めてくださった御縁を感謝し
あなたが去ることを
希望されなにかぎり
最後まで
お世話させていただきます。

神戸教区婦人会代表者会開催 親睦会で「感謝箱献金の話」

2023年5月9・10日 岡山プラザホテルにて

コロナ禍のために開催できなかった第19回代表者会と親睦会が、6年ぶりに対面で開催することになり、親睦会の中でパワーポイントを用いて「感謝箱献金」の話をしたと、代表の赤木輝美子さんから事務局に依頼がありましたので、以前、事務局で作成したパワーポイントを最新版にしたものに説明を添えてお送りしました。

～ 代表者会終了後、赤木輝美子代表から嬉しいメールが届きました ～

✏ 5月10日に無事、代表者会・親睦会が終わりました。

9日の夕食後に『感謝箱献金』の活動について、プロジェクターで大きく映して皆さまにお伝え出来ました。その後、日本聖公会婦人会の2014年からの会員数と感謝箱献金、被献日献金、また、神戸教区の2011年からの会員数の激減の様子のグラフを作成して見てもらいました。感謝箱献金・被献日献金の額と、会員数とは比例せず皆様が頑張ってお金を出してくださっている状況を改めて知ることができ、皆様にもお伝え出来ました。その後の話し合いの中で、「奉献先の様子がよくわかってよかった」「もっと感謝箱献金の大切さを教会全体で考えたい」などの活発な意見が飛び交い、この資料が欲しいという方も多くありました。説明文もつけてUSBにデータを入れたり、送るところもあり、反響は大きかったです。ご協力に感謝いたします。

感謝箱献金事務局から皆さまへ

○7月よりコアスタッフが交代しました。

2023年6月の会長会をもって、感謝箱献金事務局コアスタッフが交代しました。

日暮直子さんは2期6年間、森本愛子さんは2年間、感謝箱献金事務局の働きを担い、コロナ禍の活動制限中もZoom会議やLINEで意見交換しながら、共に活動できたことを感謝致します。今後は中尾由紀子（大阪教区）、新たにスタッフに加わった中村節子（京都教区）と運営委員長の井田涼子（京都教区）の3人で、皆様の力をお借りしながら続けていきます。

「感謝箱 カフェ」へようこそ！

だれでも参加歓迎です。

——たとえば、日曜日の午後の20～30分。

「アフリカ大陸」の地図を広げて、自由にお話してみませんか。



○ケニア共和国 アフリカの中でも首都ナイロビは近代化が進む都会、裕福な人も多い。しかし、ケニアも貧富の差が大きく、男尊女卑の考え方も強い。貧困のために育児放棄されやすいのは女の子が多い。キテンゲラ市にある「サイディア・フラハ」は1992年からケニア人2人と荒川勝巳さんの3人で始めた児童養護施設（女兒を保護・養育）と学校を運営している。

ぜひ、日本聖公会婦人会ホームページを開いてみてください。ちょっと恥ずかしそうな子どもたちの笑顔に会うことができます。歌とダンスが大好きで、英語も上手です。

○コンゴ民主共和国 ➡4ページをご覧ください。

コンゴは、金、銅、ダイヤモンドなどの産出国です。私たちが毎日使うスマホやパソコン、バッテリーなどに必要なレアメタルも多く採れます。しかし、国民の生活は大変貧しく危険が取り巻いています。鉱物は不正に国外へ持ち去られ、収入はわずか、他に仕事がありません。産婦人科のムクウェゲ医師は長年、紛争による性的暴力を受けた女性たちの治療を続ける中で、資源を巡る紛争の解決と女性や子どもたちを守ることを世界に向けて訴えています。ケニアもコンゴも日本聖公会とつながっています。礼拝の代祷でお互いに「主の平和」を祈ります。

【ガリラヤのほとり 39号 お詫びと訂正】

表紙 笹森田鶴主教の記事

・下から10、13行目「ファミリーハウスのあ」➡「ファミリーホームのあ」

・下から8行目 釧路 ➡網走

8ページ「感謝箱とわたし」染谷孝章聖職候補生

・ウィリアムス神学館 2年 ➡聖公会神学院 3年



コア チャプレン から メッセージ

司祭 アントニオ 出口崇（京都教区 下鴨基督教会）

ゆっく／ ほっ／

銭湯が好きです。

近所に行きつけの銭湯があり、時には家族と、時には夜遅くに一人で通っています。

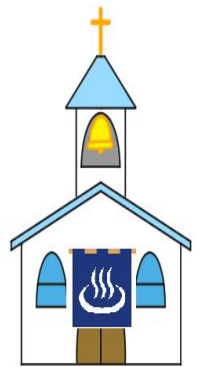
老朽化のため、昨年一度休業になったのですが、新しく事業を継ぐ方々によって、最近リニューアルされました。久しぶりに復活した銭湯、お風呂場はほとんど変わっていないので、「あー、やっぱりこれだなー」と懐かしさ、うれしさを満喫しています。

リニューアルされた銭湯は、壊れた箇所の修復と同時に、初めて来る人が入りやすいような様々な工夫が施されていました。脱衣所の手前にロビーを設けて、入口に番台を置く、外からロビーの様子が見えるように窓ガラスを変えたり、子ども向けのイベントを開催したり、営業時間を延ばしたり、SNS で発信したり。本当にいつ行ってもたくさんお客さんが入っていて、特に若い人たちが銭湯を楽しんでいます。

教会も、銭湯同様、疲れた心と身体が癒される、ほっこりする。また明日も何とか頑張ろうという気持ちになれる。そうありたいと思います。初めて来る人の敷居を低くすることで、たくさんの人たちが集まってくる。

けど、いつ行っても人がいるし、銭湯のルール（独自のルール？）を知らない人がいるとイライラしてしまう。いつ行っても空いていた、顔見知りの人たちだけしかいなかった頃が良かったと、ふと感じてしまう。これも教会と一緒になのか？変化を受け入れられない私個人の問題なのか？

よくわからなくなったので、今日も銭湯に行こうかと思っています。



感謝箱献金のいのり

神さま、今日もみ恵みの中で生かされていることを感謝いたします。

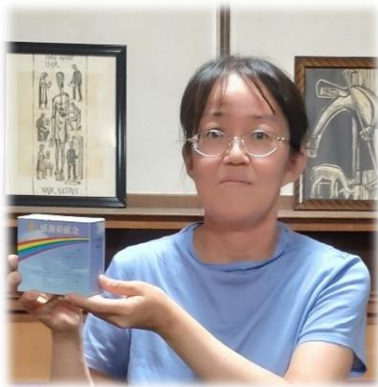
イエスさまはいつも、悲しんでいる人、苦しんでいる人と共に歩まれました。

私たちにもそのイエスさまの歩みに倣（なら）う心をお与えください。

私たちのこの献げものが、最も助けを必要としている人々のために用いられま
すように。

また、この人々との交わりを通して共に生きるものとならせてください。

主イエス・キリストのみ名によって アーメン



プロフィール

出身：奈良県大和郡山市

出身教会：奈良基督教会（洗礼堅信は大分聖公会）

経歴：出身教会で17年間庶務をさせて頂きました。礼拝の奥深さ、教会や教区での活動を通じて様々な人との繋がりを感じる中で召命を信じ、2021年にウィリアムス神学館に入学しました。

趣味：散歩、スマホで写真撮影（綺麗な景色や空を撮ることが多いです）、ウインドウショッピング

いつも神学生のことをお祈り、お支え頂き、本当に有難うございます。心より感謝申し上げます。

「感謝箱」といえば、緑色の箱が我が家のリビングに当たり前のよう存在していたことを思い出します。ある日私が「何でこの中にお金が入っているの？」と聞いたところ、母は「神さまに『有難う』という気持ちを込めて、この中に献金を入れるんだよ」と教えてくれました。母のこの答えに当時小学生だった私は分かったような分からないような、そんな気持ちだったことを覚えています。

それから年月を経て、緑と白のコントラストが特徴(?)だった感謝箱は、青い空に希望の虹がかかる、色鮮やかな箱へと変化しました。そして少しずつではありますが、この感謝箱に入れられた献金が想像以上に様々な所へお献げされていることを知りました。見た記憶がある団体名、その活動に関わっている知人、そして初めて見た団体名。その向こうにはまだ会ったことのない人たちが大勢います。感謝箱献金は私たちとお献げ先を結ぶ役割を担っているのだと思います。

この原稿を作成している現在、私は卒業小論文の準備に取り組んでおります。テーマは簡潔に書くと「愛とは何か」です。私たちがよく触れる聖句の1つに「信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残ります。その中で最も大いなるものは、愛です。」(I コリ 13:13 協会共同訳)があります。実は正直に書きますと「分かるけど…でも」と思ってしまう自分がいます。長い間アレルギー疾患に悩まされている私は、たまたま目にした本で「処方される薬も大事であるが、1番の薬は『希望』です」という文章を読んで以来「愛も大事だけど、私にとって最も大事なものは希望である」というのが心のどこかにあります。しかし今、この原稿を書くために『ガリラヤのほとり』のバックナンバーを読んでいると「…愛があってこそ、感謝箱献金なんだな」と思い始めています。感謝箱献金を含め日本聖公会婦人会の多くの働きの上に、神さまからの祝福が豊かにありますように心よりお祈りしております。

編集後記

今夏の暑さは格別でした。地球温暖化は、より現実感を持ち、平和を祈りながら、戦争は身近にあることを感じます。神さま、この秋、礼拝と交わりの中に、婦人たちの感謝と喜びの声を響かせてください。

運営委員長 井田涼子



日本聖公会婦人会感謝箱献金事務局
〒520-2331 滋賀県野洲市小篠原 847-6

井田涼子方

TEL/FAX 077-599-3728

Email suzuko@da2.so-net.ne.jp